

製本のススメ

Vol. 112

残暑お見舞い申し上げます！暑くて仕事もはかどりませんね 今年も節電の旗も振られませんが、電力っていったいどうなっているのでしょうか？

今回は**予備枚数の決め方**の話

昨今経費節減で 印刷枚数も制限されがちですね。しかし加工にとっては必要不可欠なものでもあります。いきなり色調整がバッチリできて、失敗がない印刷機があれば話は違ってしまうでしょう。。。製本加工は印刷と比較すると工程数が多く、しかも工程ごとに加工機械が違います。その都度 機械調整が行われる為 各工程での予備は少量でも、累積枚数はそれなりにまとまった数になります。目安としては下記を参考にしてください。

☆中綴じ加工 約50頁程度 1万冊程度の場合 実数の1%(約100冊分程)

☆無線綴じ加工 頁数に限らず 1万冊程度の場合 実数の2%(約200冊分程)

さて問題は**少部数の時にどれくらいか？** 100冊の1%では、実数割れを起こす可能性が高くきわめて困難です。**この場合には、工程数の多さで変わってきます。**紙折だけでも、4頁(二つ折り)ならば、セットは1箇所済みですが、16頁(八つ折)では、3箇所のセットが必要で、1台毎に予備枚数が要る計算です。その他 実数外の納本も必要な場合、それも見込まなくてはなりません。加工方法に限らず、300冊を下回る場合には、**製本会社や製本部門に確認されたほうが良いでしょう。**

また、**50冊を下回るような場合には、実数の倍量 10冊を下回る場合には、実数に限らず、10冊以上は付けるようにしてください。**

例えば東見本を **1冊作成するのに、加工は30冊以上 製本をしています。**各工程で機械の調整をし、本冊と同じ仕様で作成するためです。

時折 印刷会社経由で製本だけ！という物があります。多くの場合 予備冊数がほとんどありません。営業のみなさん、ぜひとも予備の必要性についてアドバイスをしあけてください。お客様にご理解を頂くことも、信頼度を高めるチャンスです！



Tea break

塩分の取りすぎは禁物！と言われます。では海で暮らす魚はどうかと言うとエラ部分に塩類細胞という物を持っていて、エラ呼吸の際にその細胞から余分な塩分を排出しているそうです。しかし哺乳類であるイルカやクジラなどにはその細胞はありません。彼らは大量の尿を排出することで体内の塩分を調整しています。腎臓の大きさは人間の1.5倍~3倍ほど。ちなみに尿の塩分濃度は人間と同じだそうです。哺乳類の仕組みは 人間もイルカも同じなのですね。

by (株) 井関製本